

広島市立大学『広島国際研究』刊行規程

(刊行の目的)

第1条 広島市立大学国際学部(以下「学部」という)及び広島市立大学国際学研究科(以下「研究科」という)における学術研究の成果を発表するため、『広島国際研究』(以下「本誌」という)を刊行する。

(掲載内容)

第2条 本誌に掲載する研究成果は、国際研究とのかかわりを有する未発表の学術論文および研究ノートに限る。

(投稿資格)

第3条 本誌に研究成果を発表する資格を有する者は、主に学部・研究科の専任の教員および本学の非常勤講師などとする。ただし、本学の教員以外の者の投稿を妨げない。

(刊行)

第4条 本誌は、原則として毎年度1回刊行するものとし、刊行は11月末までとする。

(委員会)

第5条 本誌の編集、刊行を行うため、『広島国際研究』編集委員会(以下「委員会」という)を置く。

2 委員会の組織及び運営については、別に定める。

第6条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則

この規定は、平成30年7月1日から施行する。

広島市立大学『広島国際研究』刊行規程に関する細則

広島市立大学『広島国際研究』刊行規程第6条の規程により、次のとおり細則を定める。

1 投稿手続き

- (1) 『広島国際研究』に投稿しようとする者は、毎年度2月末日までに、所定の投稿申込書を国際学部分室に提出しなければならない。
- (2) 原稿の提出締切日は、毎年度4月15日とする。
- (3) 原稿の提出に当たっては、必ず打ち出した紙の原稿と電子メディア(CD, USBメモリなど)を封筒に入れ、所定の論文または研究ノート投稿用紙に必要事項を記入し、封筒に貼り付けて国際学部分室に提出するものとする。

2 執筆要項について

原稿の執筆要項については別に定める。

3 論文および研究ノート審査について

- (1) 投稿論文および研究ノート審査については、審査により、掲載の可否を決定するものとする。
- (2) 審査は、別に定めるところにより、行うものとする。ただし、依頼論文についてはこの限りでない。

4 刊行規模及び体裁

- (1) 刊行規模については、編集委員会がその都度決める。
- (2) 体裁は、B5判とし、原則として横2段組とする。ただし、研究分野によっては、縦2段組とすることができる。

5 校正等について

- (1) 編集に当たり、編集委員会がその必要があると認めるときは、執筆者に原稿の書き直し、縮小等を求めることができる。
- (2) 著者校正は、原則として、1回とする。なお、校正の際の訂正加筆は、植字上の誤りに限るものとする。

6 印刷部数について

印刷部数は、発行の都度、必要に応じて編集委員会で決定する。

7 配付について

『広島国際研究』は次に掲げるところにより、無料で配付するものとする。

- ① 執筆者 本冊1部
- ② 国際学部・国際学研究科の専任教員及び本学の非常勤講師で配布を希望する者 本冊1部
- ③ 国際学部・国際学研究科の学生及び国際学研究科院生で配布を希望する者 本冊1部
- ④ その他編集委員会で認めた者及び機関

8 ウェブ上での公開とその許諾について

『広島国際研究』は、編集委員会が認める手段でウェブ上に公開される。投稿申込書の提出をもって、投稿論文がウェブ上に公開されることに関して著者が許諾したものとする。

附 則 この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則 この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成20年11月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年7月1日から施行する。

『広島国際研究』執筆要領

この執筆要領は、「広島市立大学国際学部『広島国際研究』刊行規定」に基づき、本誌の形式上の統一及びその能力的編集・刊行を図るため、原稿の書式・作成方法等に関し基本事項を定めるものである。

1. 使用言語

日本語または英語

2. 論文ページ数

刷り上がりの上限は、図表、写真などを含み、16ページ（邦文2100字/ページ、欧文650語/ページ）とする。

3. 文字数

邦文33,600文字、欧文10,400語を上限とする。

4. 原稿の作成及び提出方法

- (1)原稿は、原則として横書きとし、パソコンを使用する。ただし、研究分野によっては縦書きも認める。
- (2)原稿は、A4判用紙に、邦文横書きの場合は40字×20行を、邦文縦書きの場合は32字×25行を、欧文の場合は80字×40行を1ページとして打ち出し、完成原稿とそのコピー1部、及び電子ファイルをCDやUSBメモリなどに入れて提出する。
- (3)書式の詳細に関しては、『『広島国際研究』書式の手引』によるものとする。
- (4)邦文原稿の場合には、欧文表記による表題と執筆者名を付す。
- (5)注及び引用・参考文献等は、原則として論文末に一括する。
- (6)図表、写真等には、番号を付し、本文中に挿入位置を明示し、別紙に印刷して提出する。

5. 論文要旨

邦文原稿・欧文原稿ともに欧文要旨を付す。要旨は200語程度とする。執筆者は内容に即した欧文要旨を作成する義務がある。

6. キーワード抽出

5語前後のキーワードを抽出し、本文に添えて提出する。

『広島国際研究』書式の手引き

本誌への投稿者は、次の書式に従って執筆して下さい。

1. 目次

本文の前に目次を立てる。目次の前に英文要約を配置する。

2. 句読点

本文中及び注の文中における句読点は点(、)と丸(。)とし、原則としてコンマ(,)は用いない。

3. 文章及び章、節、項

文章は常用体、新かなづかいによるものとする。章、節、項の見出しの数字は、以下のよう統一する。

章 I. II. III / 節 1. 2. 3. / 項 (1) (2) (3) / 目 (a) (b) (c)

4. 引用

引用は、本文中又は注の文中に、丸括弧に入れて、著者名、慣行年：頁数を記す。

例：中村（1951: 21）によれば

…と言われている（Malinowski 1972: 304）。

同一文献から何度も引用する場合も、Ibid.上掲書などとせず、上記方式の表記を繰り返す。

著者が3人以上の場合には、一著者の後に他、et.al.を付す。

5. 注

注は後注とし、本文中の注見出しに通し番号（1, 2, 3…）を付す。ただし、引用注は含めない。

6. 人名

本文注および注の文中における姓と名の順序は、原則としてそれを使用する社会の慣行に従う。

7. 文献目録

文献目録は下記の要領で作成する。

(1)文献の配列は、和書は著者姓の五十音順。洋書はアルファベット順とする。和書と洋書を別にする。

(2)訳書を用いた場合、原著名などを（ ）内に併記する。

(3)文献の記載順は、著者姓・著者名(できるだけフルネーム)、刊行年、論文名、書名、誌名、巻、号、出版地：出版社とする。

Hiroshima Journal of International Studies

The Hiroshima Journal of International Studies publishes empirical and theoretical papers in the general area of international studies. Preference will be given to papers addressing issues in political science, economics and management, and cultural studies, including language studies and education. Contributions of an interdisciplinary nature are especially encouraged.

All papers submitted must not be under consideration by any other journal and will be subject to a blind review process. The Journal is published annually and all papers must be submitted by April 15 of the year of publication. Authors should inform the editor of their intended submission by the last day of February.

The editorial committee encourages all staff of the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies to disseminate their research findings via this journal. The committee will from time to time invite submissions from eminent scholars and will be pleased to consider sub-missions from researchers in other parts of Japan and those from overseas.

Any researcher interested in contributing to the Journal should contact and request the General Guidelines for a paper from the following: Faculty of International Studies, Hiroshima City University, 3-4-1, Ozuka-higashi, Asaminami-ku, Hiroshima, 731-3194, Japan.

Tel: (082)830-1505

E-mail: kyoken@m.hiroshima-cu.ac.jp

Hiroshima Journal of International Studies General Guidelines

This guideline determines the format and the style of the manuscripts in order to assure consistency and smoothness in editing and publications.

1. Language
Japanese or English
2. Number of pages and words
The maximum number of pages is 16 in final journal page format, including tables, photographs, etc. The maximum number of words is 10,400 (650 words/page).
3. Submission of Manuscript
 - (1) Manuscripts must be typed throughout. According to the fields of research, manuscripts may be typed vertically.
 - (2) The manuscript should be double-spaced on A4 paper, approximately 80 characters per line. The final version of the manuscript, one copy and the electronic data must be submitted.
 - (3) For detailed regulations on the format, please refer to 'Guidelines for Citations, References, and Style'.
 - (4) Titles and names of the authors must also be written in English for the Japanese manuscripts and in Japanese for the English manuscripts.
 - (5) Notes, references, and appendices are placed at the end the manuscript.
 - (6) Tables, figures, etc. Should be numbered and have brief titles. Indicate locations in the text to insert tables and figures. Submit tables and figures on separate sheets.
4. Abstract of Paper
The manuscript must be accompanied by an abstract (approximately 200 words in English). The abstract should be written in English for both English and Japanese manuscripts.
5. Indexes
Select approximately 5 important keywords either in English or Japanese.

Hiroshima Journal of International Studies Guidelines for Citations, References, and Style

Those submitting papers should adhere to following guidelines:

1. **Table of Contents:** A Table of Contents should be inserted before the body of the paper.
2. **Punctuation and Spelling:** Standard rules of punctuation, including commas, periods, semicolons, and colons should be followed. Either American or British English spelling is acceptable, but the two should not be mixed in the same paper.
3. **Numbering of Sections:** Headings and sub-headings should be numbered according to the following system:
 Major headings: I.II.III First sub-headings: 1.2.3 Second sub-headings: (1) (2) (3)
 Third sub-headings: (a) (b) (c)
4. **Citations:** Citations of references within the text and notes should include within parentheses the date of publication and the page number if appropriate, as follows:
 e.g. According to Malinowski (1972: 304),...
 It has been reported that (Malinowski,1972: 304).
 In cases where the same source is repeated, abbreviations like *ibid.*, *op. cit.*, *loc. cit.* should not be used. Instead, the above format should be repeated. In citations for more than two authors, et al. should be used after the first author's name.
5. **Notes:** Notes should be numbered sequentially throughout the text and inserted at the end of the text, rather than at the bottom of each page. Citation references should be included in the text, not in the notes. The notes should be explanatory in nature.
6. **Personal Names:** Personal names should follow the order of the language of origin. Thus, Japanese names in English should be written in the Japanese way, family name followed by given name.
7. **Bibliography:** A reference list should be included at the end of the paper, following the guidelines below.
 - (1) References should be listed alphabetically.
 - (2) The original title of a translated work should be included in parentheses.
 - (3) References should be listed in the following order (see examples in number (7) below):
Book: Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of book. city of publication: publisher.
Journal article: Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of article, name of journal, volume number, pages.
Article in book: Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of article, editor of book, title of book. city of publication: publisher, pages.
 - (4) Article titles should be placed in quotation marks. Book and journal titles should be in italics or underlined in order to indicate italicization.
 - (5) For reprinted books or versions other than the original, the original publication date should be indicated in brackets.
 - (6) For well-known journal, the city of publication and publisher do not need to be included.
 - (7) Examples of the required format are as follows:
 Dwyer, Kevin. 1982. Moroccan Dialogues. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
 Gussler, Judith.1973. "Social Change, Ecology, and Spirit Possession among the South African Nguni," in Erica Bourguignon, ed., Religion, Altered States of Consciousness, and Social Change. Columbus: Ohio State University Press, pp. 88-126.
 Stoller, Paul. 1984. "Eye, Mind, and Word in Anthropology." L'Homme 24(3-4): 91-114.
 Stoller, Paul and Cheryl Olkes. 1987. In Sorcery's Shadow. Chicago: University of Chicago Press.

『広島国際研究』第27巻

執筆者紹介（掲載順）

- 大庭 千恵子（本学国際学部教授）
Doke Victor Kofi AFETORLOM（本学国際学研究科博士後期課程修了）
岩上 明日香（株式会社スポーツビズ スポーツマーケティング事業部）
目黒 紀夫（本学国際学部准教授）
卜部 匡司（本学国際学部教授）
原 雅樹（本学国際学部講師）
大場 静枝（本学国際学部准教授）
金谷 信子（本学国際学部教授）

編集委員（○印：委員長）

- 井 上 泰 浩（教授）
重 田 美 咲（准教授）
武 田 悠（講師）
山 口 え り（准教授）
山 口 光 明（教授）
李 玲（准教授）

編集後記

学術研究と論文は、研究室にこもりっきりでできあがるものばかりではないでしょう。むしろ、学会や研究会で研究発表を聞き、その場の議論や夜の部の懇親会での雑談から始まり、展開していくことは珍しくないどころか、かなりあるのではないのでしょうか。ところが、感染症の規制や自粛のため、こうした研究の揺り籠と醸造の場が2年続けてほとんど失われてしまいました。

加えて、2年目とはいえ大学で授業を持つ研究者は遠隔授業の対応にかなりの時間を割かざるをえず、もしくは、完全に忙殺されてしまった研究者も少なくないでしょう。前置きが長くなりましたが、編集委員会ではいったいどれだけの投稿があるものかと心配していたのが正直なところです。

やはり、大学教員からの投稿は若干少なめでした。しかし、大学院生から本学卒業生による投稿がありました。『広島国際研究』第27巻は、これまでのように国際政治から平和構築、そして文学研究まで広範な分野の研究論文がそろいました。

これから規制や自粛は緩和していき、学会や研究会活動は徐々に元に戻る（どれほどかは不明ですが）のではないかと信じています。いわゆる「コロナ禍」の論文募集、査読と編集作業は、第27巻が最後になることを祈っています。

編集委員会委員長 井上泰浩

2021年12月1日発行

編 集 広島市安佐南区大塚東3-4-1
広島市立大学国際学部・国際学研究科
『広島国際研究』編集委員会
電話 082(830)1505

発 行 者 広島市安佐南区大塚東3-4-1
広島市立大学国際学部・国際学研究科
学部長・研究科長 金 栄 鎬
電話 082(830)1505

印 刷 者 株式会社ニシキプリント
電話 082(277)6954